

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：12401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652050

研究課題名(和文)校勘の方法に関する基礎的研究

研究課題名(英文)Fundamental Research on Methods of Collation and Scholarly Editing

研究代表者

武井 和人(TAKEI, Kazuto)

埼玉大学・教養学部・教授

研究者番号：80154962

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円、(間接経費) 780,000円

研究成果の概要(和文)：従来、古典作品の校勘(伝本間の本文異同を調べ考証し、より古いと思われる本文を復元すること)の方法として、池田亀鑑『古典の批判的処置に関する研究』で示された「誤写」を排除し、より古い本文を推定する、という方法が確立している。しかし、誤写だけで、伝本間の本文異同が説明出来るはずはない。そのことは、池田自身も十二分に認識していたところである。本研究では、池田の唱えた「誤写」による説明方法に加え、古典作品の成立過程、流伝の状況、といった、文献学的な研究成果をより意識的・積極的に加味することで、校勘の「精度」をより上げられるということを、具体的ないくつかの作品の伝本・本文を検討することで立証した。

研究成果の概要(英文)：The currently accepted method for the collation of classical Japanese texts was defined in Ikeda Kikan's work, Research on the Critical Treatment of Classical Texts. This method consists of identifying and rectifying scribal error to recreate an earlier state of the text. However, as Ikeda himself was fully aware, variations among received versions of a text cannot be explained by scribal error alone. The present study combines the method of detecting and eliminating scribal error, as proposed by Ikeda, with results from bibliographical research on the formation of classical texts and the conditions of their transmission, so as to increase the precision of the process of collation, making it more reflective and positive. The efficacy of this method is demonstrated concretely through a study of the received versions and the texts of a number of classical works.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：文献学 本文批判 校勘 伝本 書誌学

1. 研究開始当初の背景

日本古典籍の校勘(本文研究・本文批評・テキストクリティーク)に関して、汎用性を持つ理論的な研究を行った業績は、事実上、古く70年前の池田亀鑑『古典の批判的処置に関する研究』(岩波書店、1941)しかないといえよう。むろん池田論の後も、個別の作品で校勘はなされて来たり、その中には汎用的理論を持つと解される業績も皆無ではない(例えば、新日本古典文学大系・源氏物語における大島本への学的迫り方は、その好例といえよう)。

しかし、やはり研究者の意識としては、個々の作品の校勘という目的がまずは第一であり、校勘の理論・方法を広く提示するという認識は希薄であったと見る他はない。

2. 研究の目的

本研究では、従来の研究で欠けていた、校勘とはいかになされるべきかという理論・方法を、具体的な作品の伝本研究・校勘を通して、明示することを研究目的とする。また、池田論は(事実上)誤写という説明方法しか持たなかったが、それ以外の説明方法を具体的に追究・提示することも、併せて行いたい。

3. 研究の方法

(1)ある程度資料蒐集・分析が進んでいる『式子内親王集』をまずは研究対象とし、未調査の資料を調査・検討した上で、具体的に校勘作業を進めつつ、校勘の方法の析出する。

(2)上記『式子内親王集』の校勘に関する研究成果を踏まえ、その上で、『式子内親王集』の以下の新出伝本に関して、どのような校勘の方法が最も妥当か、という問題について考察する。

筑波大学附属図書館蔵本 江戸初期写
架蔵本 江戸初期写
埼玉大学蔵清水浜臣書入本

(3)さらに、研究期間中、新たに検討すべき典籍が見出された場合、(1)(2)での研究成果を踏まえて、応用的に校勘方法を適用してみることにし、異本『新百人一首』・為相本『土左日記』等の典籍を調査・考察することとした。

4. 研究成果

(1)『式子内親王集』の伝本調査従来未見・未精査であった『式子内親王集』の諸伝本を調査し、必要に応じて写真撮影・釈文作成・校合を行った。

新規に調査(または再調査)・撮影した主な伝本は以下の通りである。

東海大学中央図書館桃園文庫蔵4本
筑波大学附属図書館蔵本(新出伝本)
川越市立図書館蔵本
同志社女子大学附属図書館蔵本

京都女子大学附属図書館谷山文庫蔵本
国文学研究資料館蔵本
天理図書館竹柏園文庫蔵本
甲賀市水口図書館蔵本
青山会文庫蔵本
愛媛大学附属図書館鈴鹿文庫蔵本
架蔵本(新出伝本)

埼玉大学蔵清水浜臣書入本(新出伝本)

これら新規調査伝本・新出伝本に関して、どの系統に属するか、といった考察と紹介は、以下の口頭発表でのハンドアウトで触れたところである。

〔学会発表〕

(2)上記諸伝本を新たに視野に入れて、『式子内親王集』伝本の系統樹上の位置付けに関する考察を再度行った。特に、架蔵本について詳細に検討し、いまだ必ずしも明確ではなかった、第三類b本の古態の復元を試みた。

〔雑誌論文〕

(3)筑波大学附属図書館蔵本を対象として、全文の釈文を付した上で、系統樹上での特異な位置付け、『式子内親王集』伝本全体の系統樹の再構築の必要性、などの点について論述した。

〔雑誌論文〕

(4)文化9年刊本『式子内親王集』の形成過程を解明しうる重要な新出資料として、清水浜臣書入れ本を古書肆より入手することが出来た。その新出資料により、従来全く知られていなかった文化9年刊本の形成過程が、概ね以下のようなものであったことが推定出来た。

古書肆側における稿本作成
古書肆の依頼による清水浜臣による校訂(仮名遣の統一、闕脱本文の補填、集付・詞書等の書式の統一、底本本文の対校本による大幅な改訂等)
浜臣側での版下作成

特にこの過程で、他系統のテキストとの混態が起き、最終的には、表面上、刊本のテキストが別の系統のものに変化してしまっただことが分かった。

〔学会発表〕、〔雑誌論文〕

当初の研究計画にはなかったもので、新たに検討対象として、足利義尚編『新百人一首』、伝藤原為相筆『土左日記』、京都女子大学附属図書館吉澤文庫蔵一条兼良自筆『古今集童蒙抄』、未刊中世歌会資料などを追加した。

(5)『新百人一首』は、平成24年6月、流布本とは全く配列の異なる一伝本を入手したことを契機に、先行研究を確認したところ、いまだ緒についたばかりの段階であることが分かった。そこで、暫定的に、『新百人

一首』計27本の伝本を調査した。その結果、23本が流布本、4本が異本であることを確認した。その上で、和歌の異同、識語の比較・検討を通して、

中書本の流れを引くもの 異本

清書本の流れを引くもの 流布本

という結論を導き出し、そのことを論文として発表した。

また、立論の根拠として、異本を底本に全文の釈文を作成し、調査した諸伝本との校異を掲げた論文も発表した。

このような成立背景をかんがみるに、『新百人一首』における校勘は、流布本・異本それぞれで別個になされるべきであり、やみくもに両系統の本文を校勘して混態本文を作るとは断じてあってはならないということが明白になった。

〔雑誌論文〕

(6) 伝藤原為相筆『土左日記』(以下為相本)は、従来の研究史でほとんど考慮の外に置かれてきた。そこで、為相本(東海大学中央図書館桃園文庫蔵本が唯一の伝本)を実地調査し、本文を再確認した結果、為相本の伝本としての意義を、いまのところ為相本に関する唯一の先行研究といえる、戦前の研究ではあるが、堀部正二(1943)に一旦立ち戻り、堀部が慎重にはあるが示唆した通り、定家本や為家本に代表される「蓮華王院本」とは異なる系統のものとして認知すべきではないか、という結論に至った。ここでも、『新百人一首』と同様、安易な校勘による混態本文を否定することとなった。

〔雑誌論文〕

(7) 以前より調査・考察を進めていた京都女子大学附属図書館吉澤文庫蔵一条兼良自筆『古今集童蒙抄』の影印と釈文、解題を単行本として公刊した。兼良自筆本の全体が提示されるのは、本書が初めてである。いま一つの兼良の古今学書である『古今集秘抄』諸本と比較・考察した結果、兼良の古今学が、時の流れとともに、さまざまな系統の伝本を生み出していったことを再度確認することが出来た。

この検討においても、一つ一つの伝本の本文がまず重んじられるべきで、安易な校勘は戒められるべきである、という結論に至った。

〔図書〕

(8) 未刊中世歌会資料に関して、国立歴史民俗博物館蔵高松宮旧蔵本集中的に調査・撮影し、略解題が出来たものから以下の歌会資料を、試行的に翻刻等を進め論文として発表した。

内裏女中月次続歌(H-600-346)

点取和歌(H-600-322)

禁裏三席御会和歌(H-600-319)

崇徳院法楽百首(H-600-339)

磯の玉藻(H-600-1444)

宗祇三回忌追善和歌(H-600-342)

禁裏御点取和歌(H-146-1/2)2軸

この中で 禁裏御点取和歌に関しては、同一歌会の資料であるにもかかわらず、添削・合点や本文等に微妙な差異が認められ、各々添削した歌人が異なるという事情を加味した上でも、なお本文に、深刻な問題が存することが分かった。いまだ明快な解決案を見出すには至らないが、これも、安易な校勘を忌避する良い事例ということが出来よう。

〔雑誌論文〕

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計14件)

武井 和人、坪子 和美、異本『新百人一首』釈文 附簡校・解題、日本アジア研究(埼玉大学大学院文化科学研究科博士後期課程紀要)、査読無、第11号、2014、pp.1-24

武井 和人、【資料紹介】一条兼良筆「催馬楽註秘抄」切・影印・釈文・書誌・小攷 -、研究と資料、査読無、第70輯、2013、pp.65-66
<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=A3000359>

武井 和人、酒井 茂幸、未刊室町後期歌会資料 - 釈文と略解題(三)、研究と資料、査読無、第70輯、2013、pp.1-26
<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=A3000363>

武井 和人、大島 冴夏、伝藤原為相筆『土左日記』攷・続貂、汲古、査読有、第64号、2013、pp.14-19
<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=A3000358>

武井 和人、『新百人一首』成立攷・続貂、國學院雑誌、査読有、第114巻第11号、2013、pp.540-554
<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=A3000357>

武井 和人、酒井 茂幸、未刊室町後期歌会資料 - 釈文と略解題(二)、研究と資料、査読無、第69輯、2013、pp.1-26
<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=A3000354>

武井 和人、酒井 茂幸、未刊室町後期歌会資料 - 釈文と略解題(一)、研究と資料、査読無、第68輯、2012、pp.9-36
<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=A3000352>

武井 和人、酒井 茂幸、【資料紹介】武井蔵天文十年五月四日詠草案、研究と資料、査

読無、第 68 輯、2012、pp.37-39
<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=A3000347>

武井 和人、清水浜臣書入稿本『式子内親王集』攷 - 刊本への道のり -、埼玉大学紀要教養学部、査読無、第 48 巻第 1 号、2012、pp.7-21
<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=KY-AA12017560-4801-19>

武井 和人、『式子内親王集』第三類 b 本再攷 - 附架蔵本紹介 -、研究と資料、査読無、第 67 輯、2012、pp.1-11
<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=A3000346>

武井 和人、筑波大学中央図書館蔵『式子内親王御哥』釈文・校勘記、研究と資料、査読無、第 66 輯、2011、pp.1-15
<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=A3000338>

武井 和人、二条良基と一条兼良、その遠景、前田雅之編『中世の学問と注釈 [中世文学と隣接諸学]』(竹林舎)所収、査読無、2011、pp.70-90

武井 和人、十市遠忠『春日社詠三十首和歌』攷、國語國文、査読有、第 80 巻第 8 号、2011、pp.1-17

武井 和人、三田葆光『櫛紅葉』攷 - 刊本と稿本 -、研究と資料、査読無、第 65 輯、2011、pp.27-36
<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=A2000057>

〔学会発表〕(計 1 件)

武井 和人、文化九年刊『式子内親王集』成立の周辺 - 埼玉大学蔵・稿本『式子内親王集』(清水浜臣書入)の紹介を中心に -、和歌文学会例会、2011-7-21、於:早稲田大学

〔図書〕(計 1 件)

武井 和人、西野 強、笠間書院、『<古今集古注釈書集成>一条兼良自筆古今集童蒙抄 [影印付] / 校本 古今三鳥剪纸伝授』、2013、316(pp.3-211、283-293)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

武井 和人 (TAKEI, Kazuto)

埼玉大学・教養学部・教授

研究者番号 : 8 0 1 5 4 9 6 2

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者